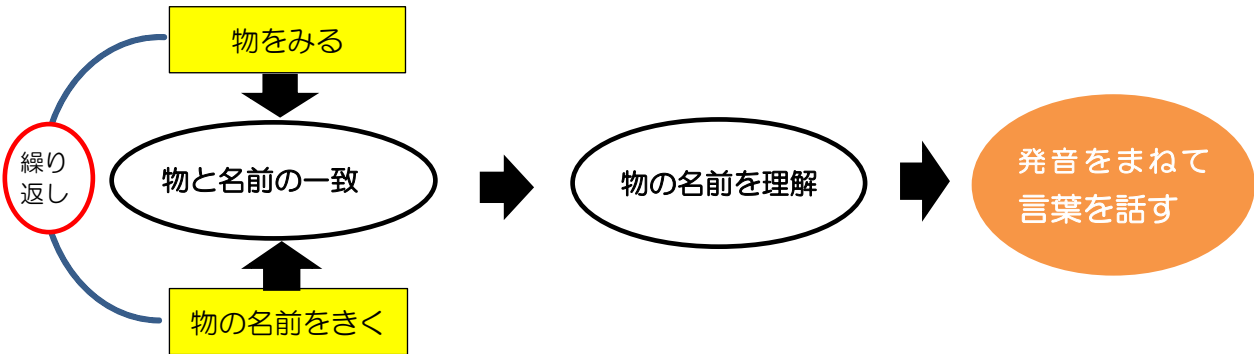


言葉の発達について

1 言葉ができるということは？



2 どの部分が育つ環境（場面）を増やしたらよいでしょうか？

思いあたることはありませんか？

- 親がもの静かで、言葉数が少ない
- 子どもが親の顔を見たり、指さしをしたりしている時に、忙しくて気づかないことが多い
- 子どもがひとりで、テレビ・パソコン・スマホを見ていることが多い
- 周りの大人が子どもの要求を察して、先回りしてやってしまうことが多い

3 子どもが見ているもの、指をさしているもの、感じていると思うことを言葉にしてあげましょう

★子どもが興味をもったものに気づいたら、「〇〇だね」と話しかけましょう。

『私の目の前にあるのは〇〇』、と物に名前があることを理解していきます。

- 食事の時…「マンマ食べる？」「おいしいね」「お茶ほしいの？」
- 排泄の時…「チー出たねー」「きれいにしようね」「気持ちいいね」
- 散歩の時…「クックはくよ」「ワンワンいるね」「ワンワンふわふわだね」「ワンワン大きいね」
「電車行っちゃった」「お花きれいだね」「遊ぼう」「ボールころころ」
- 一緒にテレビを見る時…「アンパンマンどこかな？」「びっくりしたね」「これでおしまい」
一緒に歌をうたう
- あいさつ…「おはよう」「パパ、おかえり」「おやすみ」「こんにちは」「バイバイ」「ありがとう」

4 いろいろな体験をさせてあげましょう

★何かを伝えたいという気持ちと、伝えたい人の存在が言葉を育てます。伝えたいと思うような好きなことや楽しいことを、たくさん体験させてあげましょう。

子育て支援センターや公園、地域の公民館の子育てサークルなど、子ども同士や家族以外の大人との交流からも言葉を覚えていきます。また、五感を使った様々な経験が、言葉だけでなく発達全体を伸ばしていきます。